

核兵器廃絶をめざす
富山医師・医学者の会 会報

2005. 2. 25
核兵器廃絶をめざす
富山医師・医学者の会
富山市桜橋通り6-13
電話 076-442-8000

被爆60周年 アニメ映画

NAGASAKI・1945
～アンゼラスの鐘～



8月中旬富山で上映

核兵器廃絶をめざす富山医師医学者の会の

製作・上映支援活動に
ご協力ください

被爆60周年にあたる今年、7月の完成をめざし、長編アニメーション映画「NAGASAKI・1945～アンゼラスの鐘～」の製作が企画され、全国で製作支援の運動が広がっています。

医師が主人公

映画の舞台は戦時下の長崎。原爆投下後、爆心地に程近い浦上第一病院で、医学の可能性と人間の無力さを感じながら医療活動を行なった医師・秋月辰一郎とその周辺の人々の苦闘を、現在の視点もまじえて描いていきます。

当会としては核兵器廃絶に加え、医師や医療スタッフらの献身的な医療活動がテーマとなっていることから、当会会員のみならず多くの医師、歯科医師の先生方に、製作支援と富山での上映成功のためにご協力をお願いしたいと思います。

(物語のあらすじは、2面に)

監督／有原誠治
製作／製作委員会
アニメーション制作／虫プロダクション
参考文献／「長崎原爆記」 秋月辰一郎著
「夏雲の丘ー病窓の被爆医師」 山下昭子著
上映時間／約80分

アンゼラスの鐘～あらすじ

青年医師秋月辰一郎は、結核治療に情熱を燃やしなが、長崎市郊外の丘にある浦上第一病院に赴任した。その翌年、1945年の8月9日。秋月は、病院での治療中に被爆する。

病院が直撃を受けたと思った秋月は、怯える患者や職員たちを励まし救助活動に立ち上がる。が、病院に押し寄せる市民たちの無残な姿と、破壊炎上する長崎の町を見て、広島に投下されたとおなじ新型爆弾による被爆と気づく。

浦上天主堂にほど近い爆心地から、1400メートルの地点に建つ秋月の病院も炎上。薬も医療器具も奪われた秋月たちのもとに押し寄せる焼けただけ傷ついた市民の群れ。家族や同僚の被爆、無慈悲な偵察機の来襲、飛びかう流言飛語、医薬品の欠乏、そして原因も治療方法も不明な病状の広がり。思いもかけない難題がつぎつぎと押し寄せて秋月を悩ます。

「できれば逃げ出したい」とも思う秋月だったが、人々の苦悩を前にしては踏みとどまらざるをえず、村井看護婦や医学生藤野たち若き病院の職員とともに励ましあい、必死の活動がつつく。しかし、その努力をあざ笑うかのように、人々はバタバタと不可解な死に襲われて倒れてゆく。

秋月は、その死の広がり爆心地から日を追って外に向かって円状に広がっている事実気づき「死の同心円」と名づけるのだったが、その同心円が病院のある丘に向かって広がってくることを知って慄然とするのだった。

「先生、原爆の毒は本当にひどいです」

「ぼくも、やがて土に入るさ…」

苦悩と死の恐怖と絶望感にさいなまれながらも、懸命に生命の救済に当たる秋月と浦上第一病院と被爆者たちの頭上に、こんどは巨大な暴風雨が近づいていた。

制作発表～新聞報道から

04/7/30長崎新聞

原爆投下直後の長崎市浦上で、自ら被爆しながら負傷者の救護活動に携わった医師、秋月辰一郎さん（88）と周囲の人々の苦闘の日々を描いた長編アニメ「NAGASAKI・1945～アンゼラスの鐘～」の製作が決まり、有原誠治監督（虫プロダクション所属）らが29日、長崎市役所で記者会見した。

京都市の映画製作会社「関西プロデュースセンター」（寺島鉄夫社長）など5社でつくる製作委員会が、戦後60周年記念作品として来年7月をめどに製作する。土山秀夫元長崎大学長ら3人を発起人とする製作支援の会を発足させ、全国に支援金（1030万円）を呼びかけている。

04/7/30毎日新聞

在原監督によると、物語は第二次世界大戦突入後から始まる。8月9日、長崎市に原爆が投下され、医師らは被爆者の救護に取り組む。そんな中、浦上天主堂の残骸から「アンゼラスの鐘」が見つかり、復興の一步を告げ

る鐘の音がクリスマスイブに鳴り響くまでを描くという。

秋月さんは当時、爆心地から1.4キロ離れた第一病院に勤務。幸いほとんど傷を負わず、その後3年間、医師の使命感から次々と運び込まれる被爆者の救護に献身的にあたった。その後、被爆直後の病院の様子や人々の生き方などを描写した「長崎原爆記」「死の同心円」などを記した。被爆体験を伝えるために「長崎の証言の会」を発足させ、ローマ法王に謁見して反核を訴えるなど、平和活動にも取り組んだ。

92年ぜんそくの発作で倒れて以降は聖フランシスコ病院（第一病院から改名）で寝たきりの状態が続いている。

04/7/30京都新聞

有原監督はこれまで戦争と平和をテーマにした作品を中心につくっており、「被爆の実相が広く伝わるような作品にしたい」と抱負を語った。「製作支援の会」の土山秀夫元長崎大学長は「核廃絶が達成できない世界の現状だが、海外の人にも見てもらいたい」としており、英語の吹き替え版もつくる方針。

NPT再検討会議 (5月・ニューヨーク) に 黒部副代表が会を代表し参加

今年5月2日からニューヨークで開催される「NPT再検討会議」(下段解説参照)に、当会の副代表を務める黒部信也世話人が参加し、当会のメッセージを会議参加者に伝えることとなりました。

今年の再検討会議は、世界における今後の核兵器廃絶に向けた取り組みを左右する、非常に大切な会議となります。すでに全国市長会が「核廃絶を求める決議」を送付(4面に掲載)し、そのほか多くの非核政府や団体が

ニューヨークに結集します。

つきましては、先生方にぜひ代表派遣のための募金にご協力いただきたいと存じます。

(ご連絡いただければ、郵便振替用紙を送ります)

また、集約中の「いま核兵器の廃絶を」署名をお持ちでしたら、事務局宛にご郵送いただければ幸いです。集まった署名を携え、再検討会議に臨みます。

〈解説〉

「核兵器の不拡散に関する条約」

**NPT = Treaty on the Non-Proliferation
of Nuclear Weapons**

核保有を認める弱点が…

核兵器の不拡散に関する条約=NPTは、世界における「核兵器の不拡散」「核軍縮」「原子力の平和的利用」などを目的とした条約で、1970年に発効され、2003年現在、全世界で189の国が締約しています(日本は1976年に批准)。

条約では、「米・露・英・仏・中」5つの「核兵器保有国」にたいし核軍縮への努力を求める一方、その他の国に核の保有・開発を禁じています。

リビアが核兵器開発を放棄

しかし、限りなく核保有国に近いイスラエルや1998年に核実験を行なったインド・パキスタンといった国々が締約していないこと、また北朝鮮が先日の核兵器保有発言を機に、脱退の動きを見せていることなど、多くの問題を抱えています。

こうしたなかで2003年に、締約国であるリビアが核兵器開発を放棄すると宣言

し、核を保有すると見られるイスラエルにたいして同様の措置をとるよう提言するなど、NPTによる核軍縮の取り組みが進んでいます。

5月の再検討会議とは

NPTの運用を点検するため、1975年より5年ごとに開催されている会議です。

前回2000年の会議では、核兵器国を含め、核兵器の全面廃絶に向けて取り組むとした「明確な約束」が最終文書に盛り込まれました。

今年5月の再検討会議では、この「明確な約束」の実行に向けた討議が期待されていますが、ブッシュ大統領が再選され、新しい小型核兵器の研究開発を進めるアメリカは、この「約束」を反故にしようとしています。(4面参照)

こうした動きに対し、ブラジルやメキシコなど非核地帯条約に加盟する国々が連携し、再検討会議の前の4月に非核地帯会議が開催されることとなっています。

米ブッシュ政権、NPT死文化ねらう

米、核廃絶の約束死文化 NPT、重大岐路に

核保有5カ国が核兵器廃絶への「明確な約束」をうたい、2000年の核拡散防止条約(NPT)再検討会議で採択された核軍縮措置をブッシュ米政権が「歴史上の文書」とみなし、5月にニューヨークで5年ぶりに開かれるNPT再検討会意で死文化させる狙いであることが分かった。

NPTは核保有国の軍縮義務と引き換えに、13非保有国の核兵器獲得を禁じており、核軍縮措置は条約を支える大黒柱。核超大国がほごにすれば、北朝鮮など核疑惑国に条約軽視の口実を与え、核拡散に拍車がかかる恐れが強い。発足35年のNPT体制は重大な岐路を迎えた。05年は広島、長崎への原爆投下60年の節目で、被爆国日本の立場も問われそうだ。(共同通信) - 12月31日

先制核攻撃の選択肢温存 5月NPT会議へ米方針

ブッシュ米政権が、「ならず者国家」と位置付けるイランや北朝鮮、テロ組織などへの先制核攻撃の選択肢を温存するため、核保有国による非核国への核不使用(消極的安全保障)を国際条約とすることを拒否する方針を

決定し、5月2日にニューヨークで開幕する核拡散防止条約(NPT)再検討会議に臨むことが1日分かった。米政府当局者が明らかにした。

2000年に開かれた前回のNPT再検討会議は非核国からの強い要求を受け、条約化に道を開く「法的拘束力のある消極的安全保障」の重要性を確認しており、これをほごにする決定。3カ月後に迫った再検討会議を前に、非核国が激しく反発するのは必至だ。

(共同通信) - 2月2日

全国市長会がNPTに決議文

核兵器の廃絶を求める決議

わが国は、唯一の被爆国として核兵器の廃絶を全世界に訴えてきた。

核兵器をめぐる世界情勢が深刻さを増す中、本年5月ニューヨーク国連本部で開かれる核不拡散条約(NPT)再検討会議は、核兵器廃絶を進めるうえで大変重要な意義を持つ会議となる。

こうしたなか、平和市長会議等においては2020年までに核兵器廃絶を実現するために「核兵器廃絶のための緊急行動」を展開しているところである。

核兵器は、人類の生存をも脅かすものであることから、本会は、核兵器廃絶に向けた国内外の世論がより一層喚起され、核兵器のない世界が一日も早く実現されるよう強く求める。

平成17年1月 全国市長会

会費納入のお願い

私たち医師・医学者の会の活動は、会費中心に運営しています。活動の基盤となる財政を確保するため、先生の入会ならびに会費の納入をお願いします。

会の趣旨に賛同し、入会を了承される先生は、FAXまたは電話でその旨ご連絡ください。会費納入用郵便振替票をお送りします。

◇年会費 5,000円(毎年7月が期首)

◇振込方法

「郵便振替票」をご利用下さい。

◇連絡先

核兵器廃絶をめざす

富山医師・医学者の会

富山市桜橋通り6-13

フコクビル11階 076(442)8000

編集後記

- ・「アンゼラスの鐘」のシナリオが届き一気に読んだ。原爆で焼かれた累々たる屍の描写もすさまじいが、昨日まで元気だった仲間が次々と異変が起こっていく様子は、言い知れぬ恐怖を覚える。核兵器の本当の怖さは、放射線による生体メカニズムの破壊だというメッセージを静かに伝えてくる。
- ・燃え上がる病院、医薬品もほとんどない絶望的な状況にあっても、懸命に医療活動を行なう秋月らのヒューマニズム。
- ・これほど医師や医療人たちが崇高な姿で描いた作品を、私たち医師団体が放っておくことは罪だ、と言えは言い過ぎだろうか。ポスター、チラシができた折には、どの医療機関の待合室でも見られることを期待したいと思う。(S・M)